

上下水道事業を取り巻く現状・動向と京都市の取組

現状・課題

動向・方策



市民理解・お客さま目線

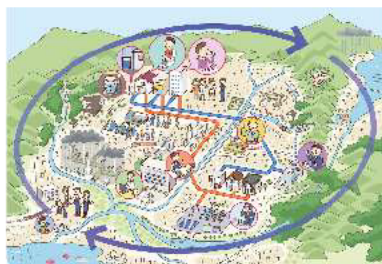
経営状況の見える化

- ・ 財務指標等による経営分析（経営指標評価）の実施
- ・ 偏差値を用いた他都市比較により京都市の現在地を共有
- ・ 分かりやすい情報発信



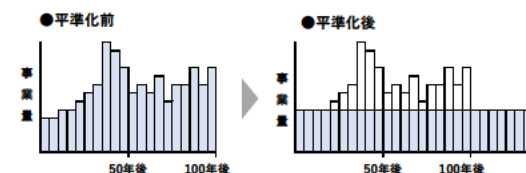
上下水道一体の取組

- ・ 平成16年度に組織を改編し、上下水道局へ
- ・ 一体的な事業運営
 経営戦略の策定・推進、技術継承、市民窓口・総務部門の一元化、上下水道料金制度の検討、事業・防災拠点の整備 など



持続可能な事業運営

- ・ 100年先を見据えた上下一体の施設マネジメント（更新需要、平準化、優先順位の検討など）



- ・ 脱炭素の実現、資源の有効利用（民間事業者と連携した調査・研究など）
- ・ 人材育成、技術継承（体験型の技術研修施設の活用など）
- ・ 広域連携の推進・強化（共同研修、防災訓練、水質検査の受託など）
- ・ 多様な官民連携手法の導入（国の機関との連携による共同研究など）
- ・ 新技術・D Xの調査、研究 など



高解像度カメラを用いた管口カメラ調査
（画像認識AIによる劣化判定の効率化（開発中））

現状・動向を踏まえ...



日本遺産 琵琶湖疏水

— Japan Heritage The Lake Biwa Canal —

琵琶湖疏水は、水道、水力発電、舟運、かんがい、庭園、防火用水等、総合的な役割を通じて、明治維新において衰退の危機に瀕した京都のまちの再生と発展を支えた施設です。

明治23年の竣工以来、今もなお、豊かな水の恵みで、京都市民の暮らしを守り、まちの産業や文化を支えています。

琵琶湖疏水HP

